

日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 9 (通巻 400 号) 2000 年 9 月

ブランド・ブームの背景

鳥居 直隆

このところ企業のブランドへの関心が高まっている。ブランドに関する本が多く出版され、雑誌等で発表される論文の数も増えている。いま、なぜブランドなのかについて触れてみたい。

◆定番復帰とM&A競争

長い不況により、どの企業も業績の悪化に悩んでいる。価格を下げてでも思ったほど売れないし、新製品を出してもコスト倒れのケースが多い。しかしその中で静かに売れ続けている商品がある。昔からある商品である。いわゆる定番商品である。宣伝をしなくとも、それ程値下げしなくとも、そこそこ売れ続けてくれる定番商品は、まさに企業にとって救いの神であり、改めて定番商品の強さとブランドの大切さが身に染みてわかったことである。

もう一つはアメリカでのことである。ここ10年乃至15年、アメリカにおいてM&A(合併・買収)が急速に増え、その際の買収金額のもとになるのがブランド・エクイティ(ブランド資産)と呼ばれるものである。これはそのブランドの資産価値を金額で表したものである。ちなみに、今年イギリスのインターブランド社の発表した第一位はコカコーラ社で、その金額は725億ドルであった。

ご存じのように欧米のM&Aはブランドを買うことである。日本のように土地とか不動産が目当てではない。従って欧米の経営者はブランドの価値を上げることが、きわめて重要な経営課題なのである。

日本とアメリカでの事情の違いはあれ、ブランドが注目されてきたことは、マーケティングの考え方や仕方にも大きな変化を及ぼしている。

◆リレーションシップ・マーケティングの重視

一昔前まで、マーケティングの目標は一口でいえば、売上高とシェアの拡大であった。しかし売上げが増えても、シェアが高くなっても利益が上がるとは限らないのが今日の市場である。それよりも、売上げやシェアよりも安定した収益がえられるものが大切になっている。そのためには、しっかりした安定顧客を持つことである。そうした考えから、近年急速に重視されるようになったのが、リレーションシップ・マーケティングである。

リレーションシップ・マーケティングは「マーケティングの究極の目標は、企業と顧客の良好な関係を維持向上することである」という考え方であり、それまでの大量生産、大量販売による売上げの拡大を第一とするマーケティングとは一線を画するものである。1人1人のお客を大切に、固定客を増やそうとする考え方である。

そうした考え方をもとに、多くの産業が新しい型のマーケティングをはじめている。その典型的な例が、旅客機におけるマイレージ・サービスであり、小売流通業におけるFSP(フリークエント・ショッパーズ・プログラム—来店頻度の多いお客への特別優遇サービス)などの顧客囲い込み策である。

目次

ブランド・ブームの背景……………1・2	委員会報告……………3	集中講義……………6・7
うちの会社……………2	簡易申告制度について……………4	広告……………8
	出版文化史追憶(49)……………5	

◆ブランドは信頼の証し

こうした企業と消費者の強い結びつきをもったものがブランドである。ブランドは消費者の長い間にわたっての愛用の結果、信頼が生まれ、愛着が生まれ、少々のことではその商品を離れることはない。いわゆるロイヤル・ユーザーといわれるものである。強い商品は、このロイヤル・ユーザーをしっかりと握っている。

ブランドとは本来こうした信頼の商品のことであるが、世の中一般では別な使われ方もしている。例えば企業人の多くは、名前のついた商品をブランドと呼んでいる。わが社にはいま20ブランドあるとか、今度出たブランドは……などという。法律的にはこれでよいかもしれないが、ブランドであるかどうかは消費者が決めることである。

消費者がブランドという場合は、必ずよい商品であり、世間で評価されている商品であり、一流の商品のことで

ある。その意味では商品は無数にあるが、ブランドと呼ばれるものは一握りしかない。企業と消費者の認識の違いはきわめて大きく、この点はまさに企業は深く反省しなければなるまい。

このところのブランド・ブームでどの企業もブランドをつくらうとしている。しかしブランドをつくるためには、10年や15年にかかる。その間、こどもを育てると同じように、大変な努力が必要である。そう簡単にブランドが生まれるものではない。

日本はモノづくりは上手であるが、ブランドづくりは下手である。それは急いで利益を上げようとするからである。いまどの企業も苦しい時期を通過しているが、21世紀に通用する新しいブランドをじっくりと育てて欲しい。そうすることがグローバルな時代に向けて、日本が生き延びる道だと思ふ。

[榊日本マーケティングシステムズ 代表取締役]

うちの会社

ワイリー・ジャパン

東京都千代田区九段北1-3-3 九段下東急真サクラビル6F
Tel : 03-3556-9762 Fax : 03-3556-9763

ワイリー・ジャパンは1807年創立の北米最古の科学技術書出版社ジョン・ワイリー & サンズ社の東京連絡事務所として1960年代に活動を開始しました。現在は支社としてマーケティングとプロモーションを展開しております。

現在ジョン・ワイリーは米国本社ほか、英国、ドイツ、シンガポール、カナダ、オーストラリアで出版活動をしています。STM、テキスト及びトレード分野にわたり、エレクトロニック・プロダクツ200点、書籍点数11,000、ジャーナル400点、年間新刊1,500余りを扱い、STM出版では世界のトップ“3”に位置し、1996年にはドイツのVCH社を吸収し、化学分野の出版社としては世界“1”となりました。

こうした国際的な発展を背景にしてワイリー・ジャパンは、現在組織的にはシンガポールのワイリーのテリトリーに属し、出版物は英国のワイリーより日本のマーケットに供給しております。又、展示会、プロモーション、プロシユア類、広告等にてタイムリーに

出版物を皆様にご紹介するように努力いたしております。最近では、1999年に正式に始動しました約300のワイリー・ジャーナルをご覧頂けるワイリー・ジャーナルのインターネット・サービス Wiley Inter Scienceをはじめとして最先端技術を駆使したプロダクツをご案内いたしております。

更に、1997年よりワイリー・ジャパンでも編集活動を開始し、2001年には日本化学会をはじめとする日本の化学関連学協会の協力による英文総合論文誌“THE CHEMICAL RECORD”を出版する事になりました。

今後共、メンバーの書店及び出版社等の皆様のご協力を頂きつつ、共に国際的の最新科学情報を21世紀に向けてより積極的に日本から世界に発信、世界から日本にとり入れてゆけるよう、より良いマーケティング及びプロモーション活動に努力いたしてまいりたいと思ふいます。

長谷 整

JAIP 第37回麻雀大会

去る8月11日(金)、盆休み前の週末、クラブ東久(東京駅八重洲北口前)で37回大会が開かれました。暑さを吹き飛ばすには“冷房の利いた部屋でビールを飲みながら麻雀を楽しむのが一番”と思うのは私だけではないはず。皆さん額の汗を拭きつつ定刻の6時15分には揃いました。今大会は新しく協会のメンバーになられた三友社の西野さんと椎名さん、阪神エアカーゴの中村さんと、新顔の参加も得、また久しぶりにパイを握ったという古田さん、和田さん(共に丸善)や真田さん(UPS)など総勢20名、5卓の三回戦でした。半荘(ハンチャン)の制限時間が45分の戦いとなれば日頃顔馴染み同志の皆さんも真剣そのもの。「明日はTomorrow、今日は積もろう、エイッ!」とパイを握り潰さんばかりの気迫は正にこのゲームの醍醐味でしょうか。9時半頃ようやく三回戦も終り、三連勝中の内田さん(東亜ブック)に替わって鶴社長(東亜ブック)が見事優勝!「対戦相手に恵まれ、今日は本当に配パイが良かった。何より会社の良い宣伝になりました。」と喜色満面で語るスピーチに盛んな拍手が送られました。聞いてみると東亜ブックさんでは社に電動卓を置き、トレーニングを積み重ねているとのこと、麻雀を通して社員の意思疎通を図る一つの方法には感心致しました。また最後までに優勝戦線に留まって善戦した戎井さん(丸善)、雨宮さん(タトル商会)、金木さん(原書店)も印象的でした。

幹事役の尾崎さん(エイビス)、村山さん(ゲーテ書房)ありがとうございました。次回大会を(来年二月)を楽しみにしています。

成績 優 勝	鶴(三郎)(東亜ブック)	69点
第 二 位	雨 宮(タトル商会)	59点
第 三 位	金 木(原書店)	52点
ブービー賞	川 原(UPS)	-54点
大 波 賞	椎 名(三友社)	
	和 田(大洋交易)	
バランス賞	戎 井(丸善)	
レディス賞	尾 崎(エイビス)	
当 月 賞	古 田(丸善)	
当 日 賞	中 山(丸善)	

(友隣社 上原鉄男記)

—「国際子ども図書館」見学会— 報告

8月24日(木)午後1時から、国立国会図書館の支部図書館として2000年1月1日に設立され、5月6日からサービスを開始した上野の「国際子ども図書館」見学会を行いました。参加者は総勢11社23名でした。

子ども図書館の企画協力課・大塚晶乙係長の懇切丁寧な説明は、国際子ども図書館創設の意図・方針から始まり今後の計画など、大変分かりやすく有意義なものばかりでした。また私共の業務の参考になるお話しも随所に行いました。説明の後、大塚さんと織本尚志氏(司書)の案内で、現在公開されている全施設を見学の後、質疑応答を経て、午後1時45分、現地散会となりました。

猛暑の中、業務時間帯にも拘らず、各社から大勢の方々に参加していただき、また企画をご支援くださりありがとうございました。

委員長 清水弘文

〈ダイレクター委員会〉

ウェブサイト開設

多くの会員の皆様には既にご覧いただいていると思いますが、この程懸案の日本洋書協会ホームページが立ち上がりました。【<http://www.jaip.gr.jp>】

時あたかも“IT”なる略語が喧伝され、国をあげて情報通信技術革命に突入しようとしています。この時流に取り残されない手段の一つを、遅ればせながら我が協会も手にしたことになりますが、次の課題はコンテンツを如何に拡充できるかです。そしてそれ等が直接、間接に皆様のメリットとなり、また親睦・交流の役に立つことにならなければなりません。

その一つとして、会員専用ページ〔会員の方はこちらへ〕を設けました。ここにはデータの登録、修正、削除を行うメニューと共に、速報を要する各種のお知らせや報告、ニュースのページも用意しました。現在試みに幾つかの内外ニュースを掲載していますのでご覧ください。このページについて、皆様の忌憚のないご意見、ご提言をお待ちしております。

委員長 山川隆司

簡易申告制度について

輸入通関の簡素化と効率化を図るために、予てより検討が進められて来ましたが2001年3月から導入されることになりました。去る9月6日に東京税関による説明会が行われましたので、ご参考までに以下その概要をお知らせします。

◆簡易申告制度のイメージ

予め税関長の承認を受けている輸入者は、指定された種類の貨物について引取申告と納税申告を分離し、納税申告の前に貨物を引き取ることができる。

◆簡易申告制度のメリット

- (1) 引取申告時の申告項目が削減される。
- (2) 引取申告や納税申告が基本的にペーパーレス化される。
- (3) 引取申告時の納税のための審査・検査が基本的に省略される結果、通関に要する時間が短縮される。
- (4) 納税申告を後日まとめて行うことができる。

この制度を利用しようとする場合は、予め税関長に「特例輸入者」の承認を得、貨物を指定するなどの手続きが必要となります。詳細については最寄りの税関署または通関業務を委託されているフォワーダーにお問い合わせください。(ご希望により説明資料をお送りします。事務局へご請求ください。)

東京税関 03-3599-6421

※東京税関は9月18日より下記に庁舎を移転しています。

横浜税関 045-212-6165

東京都江東区青海 2-56 東京港湾合同庁舎 1~8F

大阪税関 06-6576-3391

最寄駅 テレコムセンター [新交通ゆりかもめ]

名古屋税関 052-963-6058

東京テレポート [臨海副都心線]

【各簡易申告管理官】

(事務局)

PR の欄

日本出版貿易株式会社英国法人 JP-BOOKS (UK) LIMITED 設立

パリ文化堂第1号・第2号店に引き続き、上記法人を設立し英国ロンドンの三越内に新店舗日本書店を開店しました。

日本のあらゆる雑誌・書籍の新刊を他種類に取り揃え、日本語読者からのニーズに迅速に対応、また文具、紙製品、音楽関係ソフト、伝統工芸品等の日本雑貨を販売、まさしく英国における日本文化の普及という一翼を担っております。

所在地 : 14-20 Regent Street, LONDON SW 1 Y 4 PH, U. K.

TEL : 020-7839-4839 FAX : 020-7925-0346

最寄駅 : 地下鉄 Piccadilly Circus

営業時間 : 月~土 9:30am-6:00pm/日 (9月~11月) 10:30am-4:30pm

洋書の歴史雑記帳〔Ⅲ〕 吉利支丹と洋書(3)

鈴木陽二

◆伴天連たちが舶載した洋書

1556(弘治2年)、インド準管区長ベルキオール・ヌネシュ・バレットがガスパール・ヴィレラ、メンデス・ピントなど6名のイエズス会士を伴って豊後に来航しているが、そのとき100冊近い書籍をもってきたという。実に多彩な内容で、聖書(原典、註釈書、用語辞典)、神父、神学、哲学、典礼、靈的書籍など広範囲にわたり、その中にはプラトン、アリストテレス、聖アウグスチヌス、聖トマスの著作を含んでいた(井手勝美「キリシタン時代に於ける日本人のキリスト教受容」)。

海老沢有道先生も『日本の聖書』でこの件に論及しており、それによると、1554年末のゴアで日本にもっていくために準備された図書目録(“Copia do que levou Mestre Belchior pera Japam 1554” Documenta Indica III)には、「(旧新約)聖書 biblias 3、新約聖書 Testamentos novos 6、聖書語句索引 concordantias、伝導書、雅歌、詩篇、パウロ書簡などの注解書、『聖務日課』や詩篇歌』などの聖書関係書がリストされ、また『イミタティオ・クリスティ(トマス・ア・ケンピス『キリストの倣び』)も含まれていたという。

ヌネシュは5カ月ほど豊後にとどまって帰国したが、ヴィレラ(Gaspar Vilela 1525-72)は1570(元龜1年)まで約15年の長い年月、日本人の教化に全精力を注ぎ込んだ。ザビエルの意志を継いで京都での布教に尽力し、その苦難の宣教活動は、40歳で早くも白髪になり70歳ぐらいい見えたというほど苛酷なものであった(『耶蘇会士日本通信』)。彼は足利義輝に布教の許可を得て、京都での宣教の礎を築いた。後フロイスが信長から朱印状を与えられ、1575(天正3年)に四条坊門(現在の姥柳町)にオルガンティーノの設計で聖堂を建築し、「南蛮寺」と呼ばれるようになった。狩野元秀の筆になる扇絵「なんばんたふの図」を見ると、城の天守閣に似た三層の塔をもつ和風の華麗な建物で、都に評判を呼んで見物人が訪れ、多くの信者がつどった。この地は奇しくも信長が最後を迎えた本能寺に近く、今では「南蛮寺跡」の石碑に在りし日の伴天連の寺を夢想するばかりである。

信長が吉利支丹を庇護したことは広く知られているが、

彼は安土山に豪壮な安土城を築くとともに、山麓を囲む琵琶湖の入江を埋め立てて町づくりを行った。そしてそこに土地を与えられた宣教師オルガンティーノは、1581(天正9年)に島原半島の有馬とほぼ同じころ日本で初めての「セミナリオ」(神学校)を開校した。信長から特に許され城と同じ瓦を葺いた建物はどんな様子だったか今では不明であるが、衆目を驚かせた異国風の重厚なものであったろう。『グレゴリオ13世一代記』収載の安土セミナリオの図は、鐘塔を配した石作り風3階建ての完全な西洋建築であるが、果たしてこのような様式であったのか「到底そのまま信ずることは不可能である」という見解もある(内藤昌『復元 安土城』)。かつて楽市楽座でにぎわい伴天連が行き交った安土の町を、今では想像するよすがもなく、安土山の麓大白(デウスより転訛)に保存されているセミナリオ史跡公園のみが、薄れ行くキリシタンの歴史を物語ってくれる。

宣教師や修道士たちが渡日の折多くの書籍を舶載し、宣教活動を行いながら早い時期から日本語への翻訳を試みたことは、フロイスの『日本史』や、『イエズス(耶蘇)会士日本通信』『イエズス会日本年報』などで知ることができる。ヴィレラも南蛮寺で『サントスの御作業』(“Flos sanctorum”)や告解書など、数種の教書の翻訳を手掛けているし、また1563(永祿6年)までに肥前度島で4福音書の全訳が行われたという例もある(海老沢有道『日本の聖書』)。こういった事例は数多く拾い出すことができるが、紙数の関係で割愛する。

宣教師が輸入した書籍の全貌を解明することは難しいが、1614(慶長19年)に高山右近、内藤如安を含むキリシタン信者や宣教師がマニラとマカオに追放された折、日本から持ち去ったと思われる書籍が、マカオのイエズス会日本管区代理部とコレジョ所蔵の図書目録として残されており、それには追録リストを併せて575点の書籍が掲載されているという。すべてが持ち出された本という訳ではないだろうが、この数字からの印象でも、日本に舶載された原書は想像を越える量であったと思われる。

〔参照文献(文中以外):海老沢有道『切支丹典籍叢考』/『南蛮寺興廢記』(元丸善・本の図書館長)

集中講義

島岡 丘

「大学の先生は休みが多くていいですね」などとうらやましがられる時がある。なるほど、朝早く、通勤しなくてもよいし、都心などの「通勤地獄」に出合わなくてもよいということなどもないわけではない。しかし、休みは学生たちが休むわけで、大学教員にはかえて休み中のほうが不規則な日課になり、いそがしくなることが多い。私の個人的な経験でも、7月から8月にかけてには多くの学会や研究会などがあつた。大塚英語教育研究会、英語発音表記学会、英語教員のための夏季講座、アイリス関西支部大会、3日間の集中講義、エレック同友会セミナー、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、つくば英語教育セミナー、それに5日間にわたる集中講義があり、筑波大学東京学校教育部、茨城キリスト教大学、保善高校、大阪支社小学館ビル、東京国際大学、東京学芸大学、つくば情報通信研究支援センター、常葉大学などに赴いた。

これらの行事のうち、集中講義についてふれてみたい。大学のカリキュラムには集中講義という講義科目が設けられているが、ある専門科目について、教えるべき教授が定年退職し、その補充がない場合、あるいは新設学部専任教授がない時、他大学の教員に応援を依頼し、学生に単位を出してもらふことになる。

大学教員はそれぞれの本務校で専念するのが建前であるが、休暇中などを利用して集中講義に出張するのは、私的なこととして大学当局は黙認しているのが現状だ。もし、これが禁止ということになると、大学院などの高度の専門性をもつ授業だけでなく、大学院そのものが事実上成立不可能になる。

実際に大学院を開設するためには、自前の専任スタッフで不十分なことが少なくない。その場合、他大学の専任教員を大学院設置のための授業担当者として依頼し、業績一覧表などを手続き上提出してもらふことになる。提出された書類は文部省のほうで書類審査が行われるのであるが、その審査は厳しい基準で行われるらしい。レフリー付きの論集に掲載された論文数、著書が何点あるか（共著の場合は章別単著）、主要業績が5点以上あり、その内容は担当科目に関連性が高いかどうか、また、学会活動、社会活動なども評価の対象となるらしい。

特に主要業績となると独創性とか学問への貢献度が問

われるから、容易には書けず、1年に1つか2つ仕上がればよいほうである。大学院担当及び論文指導適格者かどうかの資格審査となると、業績の点数が25点ぐらいは要求されるから、若い教員は業績作りに精を出す。特に競争社会であるアメリカでは、今でも Publish or Perish という状況が続いているようだ。しかも着任後の数年間は仮採用であるから、専任になるための論文数が必要になる。また、期限付きのほかにも、受講者の評価も審査の対象にされるから、学生への応対にも神経を使う。日本の場合は、教授者に対する敬意と信頼という文化的土壌があるので、学生からの授業者評価というよりはむしろ教授者自身の自己評価に依存することになる。

ともかく、私は毎夏5日間の集中講義に出かけている。教員はすべて、修士以上の学位を持つべきだという追い風があつて、中学・高校の現職教員が大学院の集中講義に多く参加する。集中講義では、受講者に研究の醍醐味を味合わせ、自分の頭で考え、それを出し合つて、話し合いによって考えを深めていくことではないかと思う。

中学・高校の先生から生徒の実態を伺うことがあるが、英語について言えば、英語嫌いになる生徒の数は全体の半分以上を占めるとのことである。その要因を見つけそれに対処する具体案を生み出さなければ、生徒自身の将来もまた日本の将来も希望を持てるものにはなり得ないことになる。

英語嫌いになるのは英語の学習法が間違っているのではないかと思われる。その解決法は、われわれが母語を覚えてきたプロセスから導き出せるのではないだろうか。母語を身につける時、単に覚えるために覚えようとしたのではなく、何かの必要があつてことばを駆使できるようになったのである。つまり、現実のニーズと言葉とは一致していたのである。

中国で育ち、今著名な大学の教授をしている親しい友人から子どものときの体験談を聞いたことを紹介したい。中国の子どもも異質のものを好まず、異質のものに対してかなり残酷な態度を取るという。中国語のアクセントが少しでもおかしいと石をぶつつけられたそうで、石をぶつつけられないように本人は中国語の音調を死にもの狂いで覚えようとしたそうである。日本国内のことばの教育は文字を中心に行われてきた。そのせいで、発音はどうでも文字が誤りなく読みまた書くことが出来ればそれで通用してきた。また、教員採用についても、大学で必要な教職単位を取得していれば、あとは何となく教員

になれた。英語は音声中心の言語である。綴り字の不規則性に対処するには、発音記号の活用と近似カナ表記の併用が不可欠のように思われる。

しかし、今は事情が変わった。教員の採用枠が少子化の影響もあってかなり狭くなったこと、また英語の教員採用の面接試験には、英語を母語とするいわゆる ALT (Assistant Language Teacher) と教育委員会の試験官と合同面接で行われることになり、発音や表現力が劣っていると教員採用試験に不利になるようになった。

私の集中講義では、このような事情を考えて、講義はすべて英語で行った。受講生は5日間連続30時間以上の英語のシャワーを浴びたことになる。受講者のパフォーマンスを適宜入れたので、退屈するものもおらず、受講生とのインタラクションを通し、緊張と弛緩が混じり有意義に過ごした。熱心な受講生に混じって大学の専任教員もいたり、すでに国立大学で修士号を取ったものもいて、今年は受講生に恵まれていたと思う。集中講義の最後にコメントを全員に書いてもらったが、受講者の率直な感想を紹介したい(原文からの抜粋)。

○理論(頭の知識)と身体(口を使った技術)と心が一体になってこそ、英語を話せ、伝えられることができるのだとあらためて思いました。夢にまででてきた先生の熱心なそして耳に残っている音を便りに「継続は力なり」でくり返していきたいと思います。

○Your policy is very clear. You said yes or no clearly. And everyone tried to be close to your model. So did I.

○英語の発音を良くするための手がかりがたくさんあったと思います。日本語にある近い音を持ってきて、ある英単語を発音する、例えば、linguistic の gui はぐいっととか time と international の t の違いなどです。

○Now I'm very interested in English phonetics. I want to continue to study it and practice English pronunciation very hard. And some day I'm going to be a super native speaker of English.

○After I took your seminar, I have come to feel that KIPA (Kana-IPA) you've invented can be applied to not only speaking but also listening.

○Your seminar was a little strict for me, but it enabled me to pronounce English sounds more clearly. You mentioned a lot of important things with some funny gesture, and it will remain in my

mind for a long time to come.

○授業を英語でやってくださってありがたかったです。これからも練習し続けていきたいです。

○英語のまま理解したことが今の私にとっては一番の収穫でした。これを機会になるべく発音記号通りに話せるように練習を続けたいと思います。

○カタカナと英語の発音は「別物」とずっと考えていましたが、「近似カナ表記」を教えていただき、発音記号が読みとれないときに使うと英語の発音がすぐに発音できるようになることも良い勉強になりました。

○Your lecture gives me a lot of great information and knowledge, which have made me more confident. It also made me feel that I must be more enthusiastic than before to teach English to younger students.

○これからも先生の本やプリントを使ってリズムとイントネーション、強弱などを練習し続けていきたいです。

以上のような感想を述べてくれる学生たちがいると、受講者が感動する教育はやはり出来る限り、続けていきたいと思う。今の標準的な大学のカリキュラムは1週1コマ方式である。集中方式がよいのか、週1方式がよいのか検討する必要があるだろう。私の留学先の大学や大学院は週2か週3方式が主流であった。開設科目一覧表には講義の題目のほかに数字で難易度が示され、MWF とか TR とか示されていた。R が Thursday のことだと知ったのはしばらくしてからだった(ただし、この表示はアメリカ英語に限られるだろう)。日本の大学で週2か週3方式を採用するのが困難である以上、それに代わるものとして集中講義が見直されてもよいのではないだろうか。講義が1週間に1回だと覚えたつもりでも身につかないうちにかなり忘れてしまう傾向がある。私の本務校で掛川教授が実行されているプロトコール方式(前回の講義の要約を学生に発表させるやり方)は忘れることを食い止め、理解を深化させる効果があるので今後も実行してみたいと思っている。

実際、科目内容によっては集中方式が効果があるのではないかと考えられる。受講者に欠席なしで寝食を共にするというのも魅力的だ。このことで思い起こすのは2週間の英語合宿である。機会があればこのことについても書いてみたいと思う。

(茨城キリスト教大学教授)

2000年末の全面改訂が決定!

ニュー・グローブ世界音楽大事典
第2版 全29巻
(本体28巻+Index)

The New Grove Dictionary of Music and Musicians

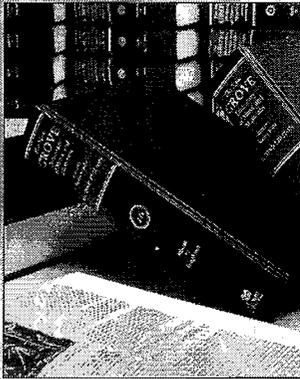
2nd ed. 29 Vols.
Ed. by Stanley Sadie

2000:12. (注文番号 MBN:9937950)

予約特価 (2000年12月15日迄) 概価 ¥595,000

通常価 (上記以降) 概価 ¥720,000

1980年の刊行以来、世界最高の音楽事典として揺るぎない地位を誇る「ニュー・グローブ世界音楽大事典」が、この20年の学術研究の成果と新しい作曲家や演奏家等の情報を踏まえて全面改訂され、2000年末に第2版として刊行される運びとなりました。



- 総見出し数約29,000。楽譜の引用、図版、地図、写真等を豊富に掲載。
 - 世界各地から約6,000名の専門家、研究家が執筆に参加。前版の掲載記事を大幅に加筆、修正するとともに、新たに約5,800の項目を追加。
 - 古代、ルネサンスから現代まで、西洋音楽から民族音楽、大衆音楽までを扱う包括的な内容。
 - 哲学、心理学研究の変化、「デコンストラクション」「ジェンダー」「ポストモダニズム」など現代思想上の潮流を、各論文の書き下ろしにおいて十分に反映。
 - 楽器とその歴史についての詳細な記述。民族音楽、大衆音楽で使用される楽器も豊富に収録。
- ★冊子体をご購入の場合、特典としてオンライン版を1年間無料でご提供!

(Macmillan, GBR)

(表示価格に、すべて税別)



http://www.maruzen.co.jp/

日本総代理店

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 装替:00170-5-5

首都圏 店・舗: 上野・水・有楽町・内幸町・赤坂・渋谷・新宿・府中・北千住・有田沼・船・取手
支店・店舗・営業所: 千葉・大王子・大宮・札幌・盛岡・仙台・新潟・郡山・筑波・横浜・静岡・浜松・名古屋
津・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄
ニュー・ジャージー・ロンドン・シンガポール

2000年9月 通巻第400号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘

☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

URL:http://www.jaip.gr.jp E-mail:jaip@maruzen.ne.jp

印刷所=藤本綜合印刷株式会社